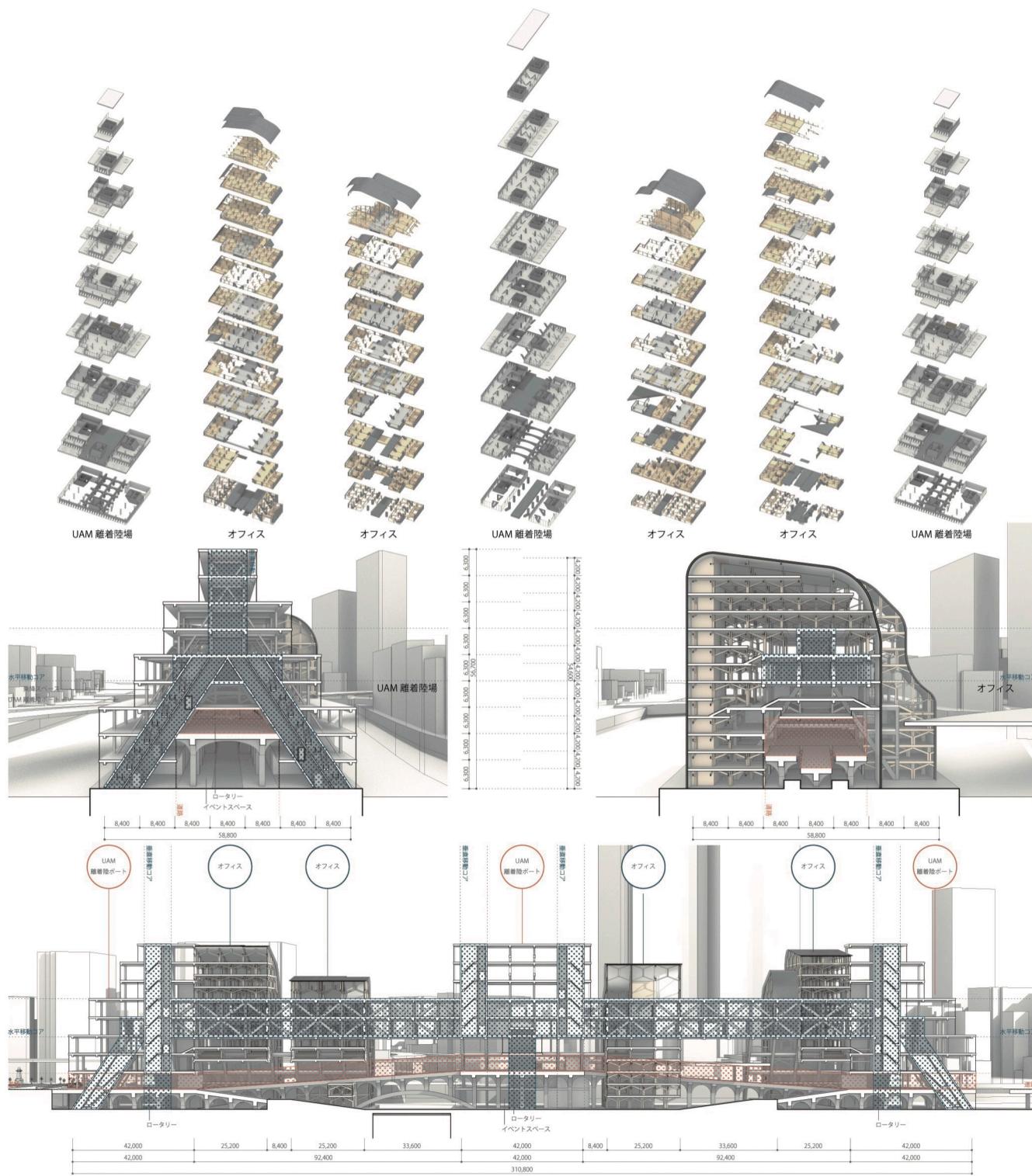


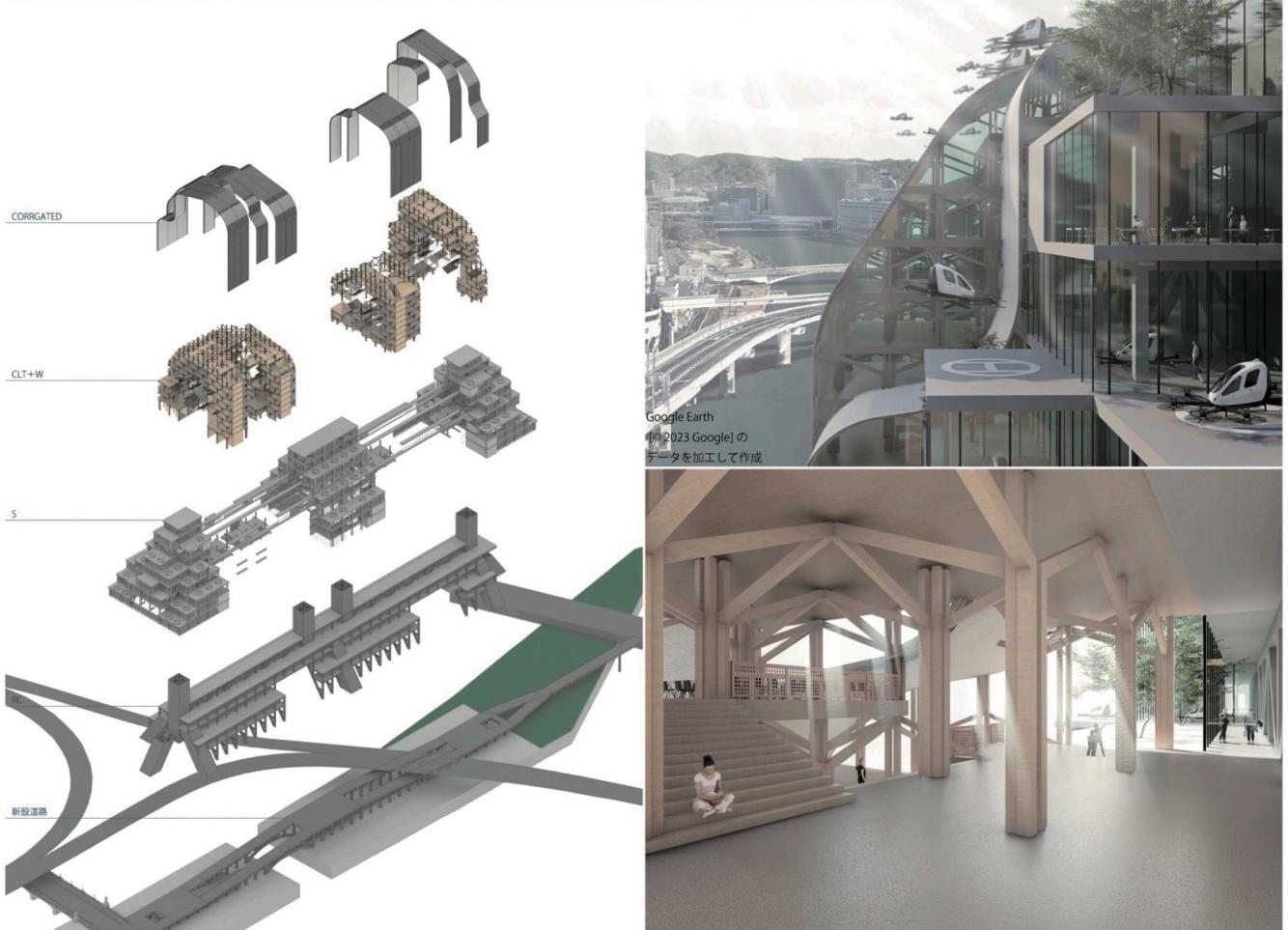
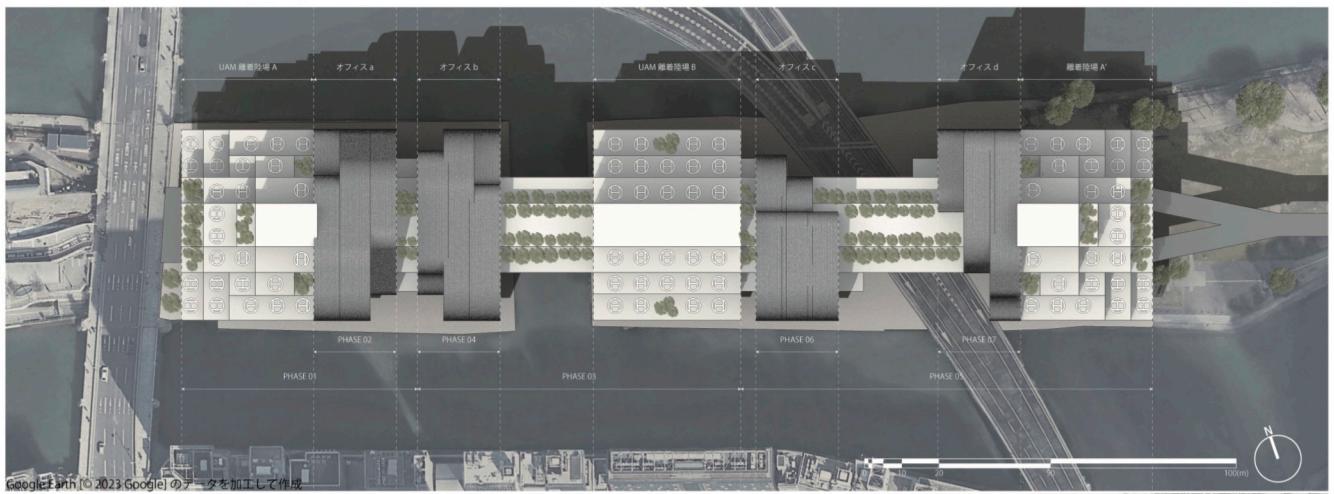
都市型航空交通インフラの研究及び設計提案

上山貴之（光嶋研究室）



「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けて研究開発が進められている。「空飛ぶクルマ」は鉄道や道路等の従来の地上交通の2次元的な移動とは異なり、3次元的に移動可能であるため、都市における交通の問題解決に繋がると考えられている。さらに、人口減少にある近未来の都市において持続可能な建築を実現するために、今までの拡大思想に基づいたスクラップ＆ビルトによる都市及び建築の更新方法に代わる、新しい都市と建築のあり方を考える必要がある。以上のような背景から、本研究では『都市型航空交通インフラの研究及び設計提案』を行い、新たなモビリティの登場によって実現される近未来における持続可能な都市及び建築のあり方を提示する。



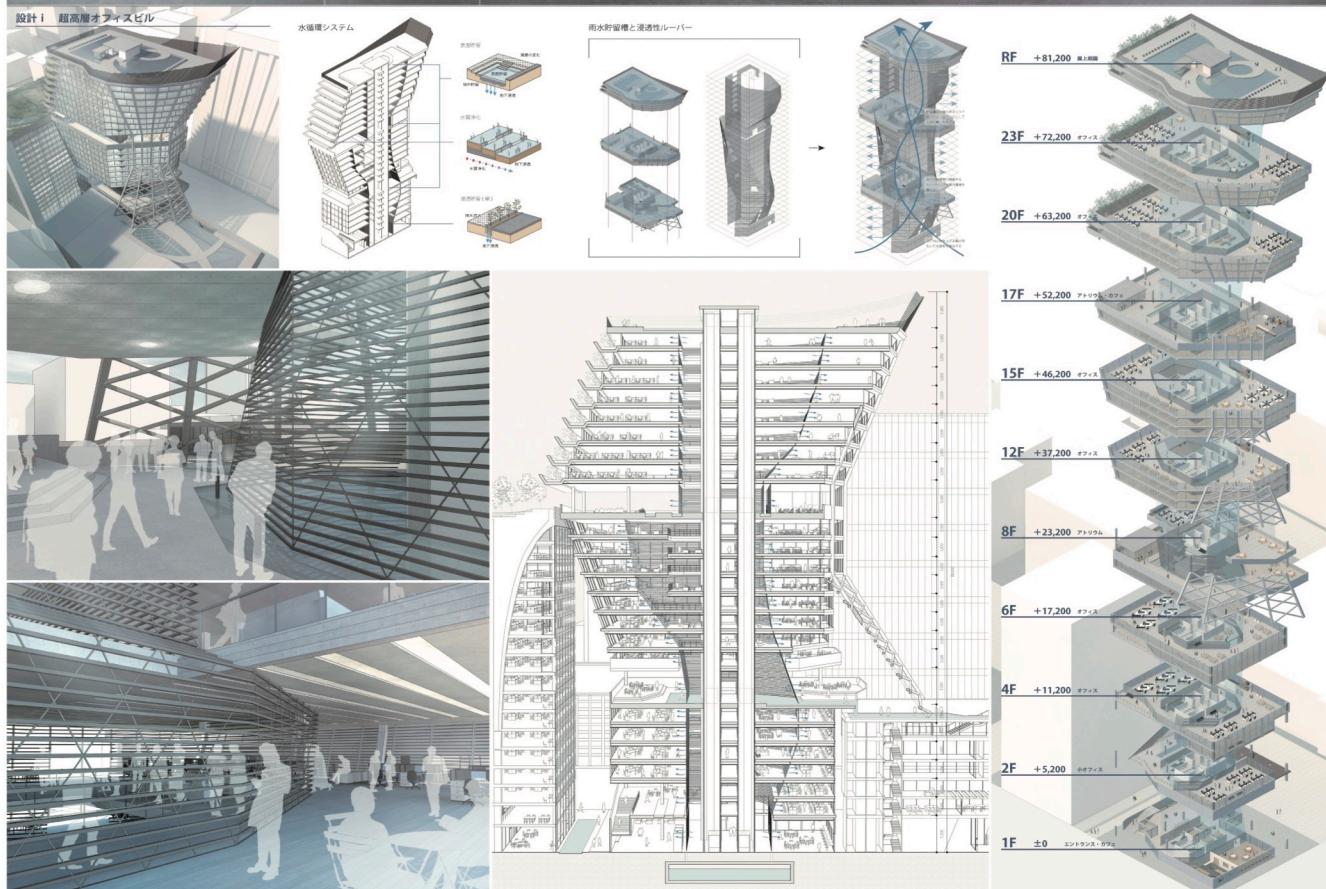
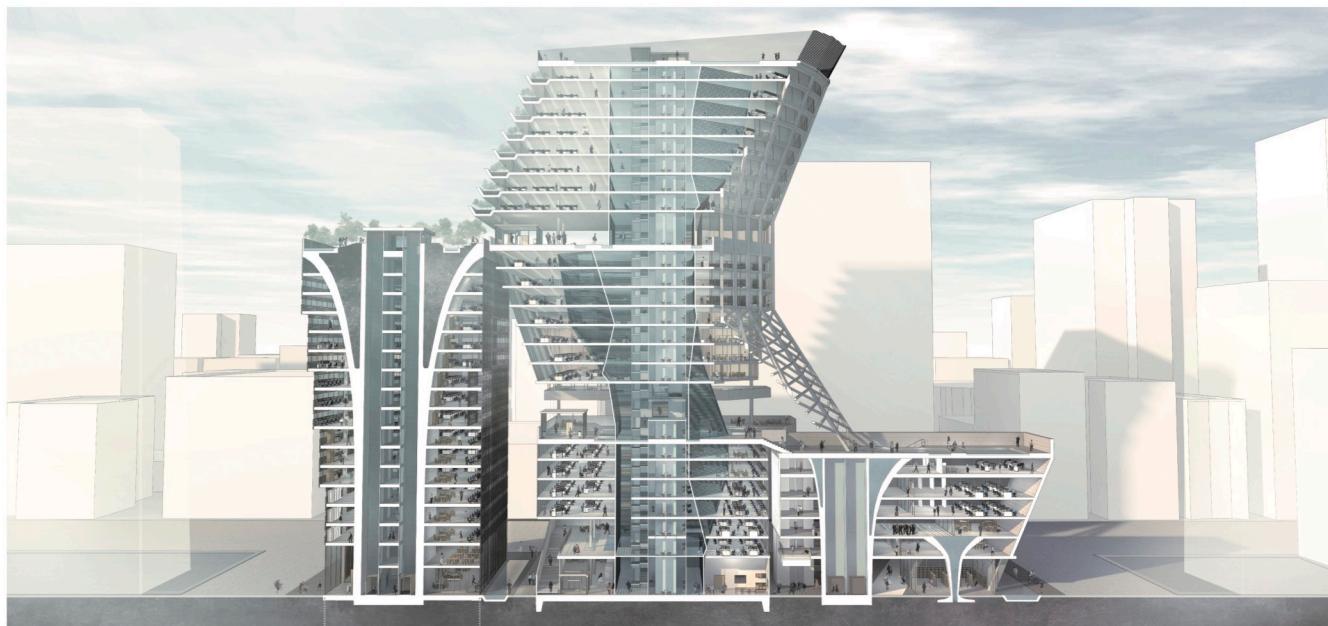


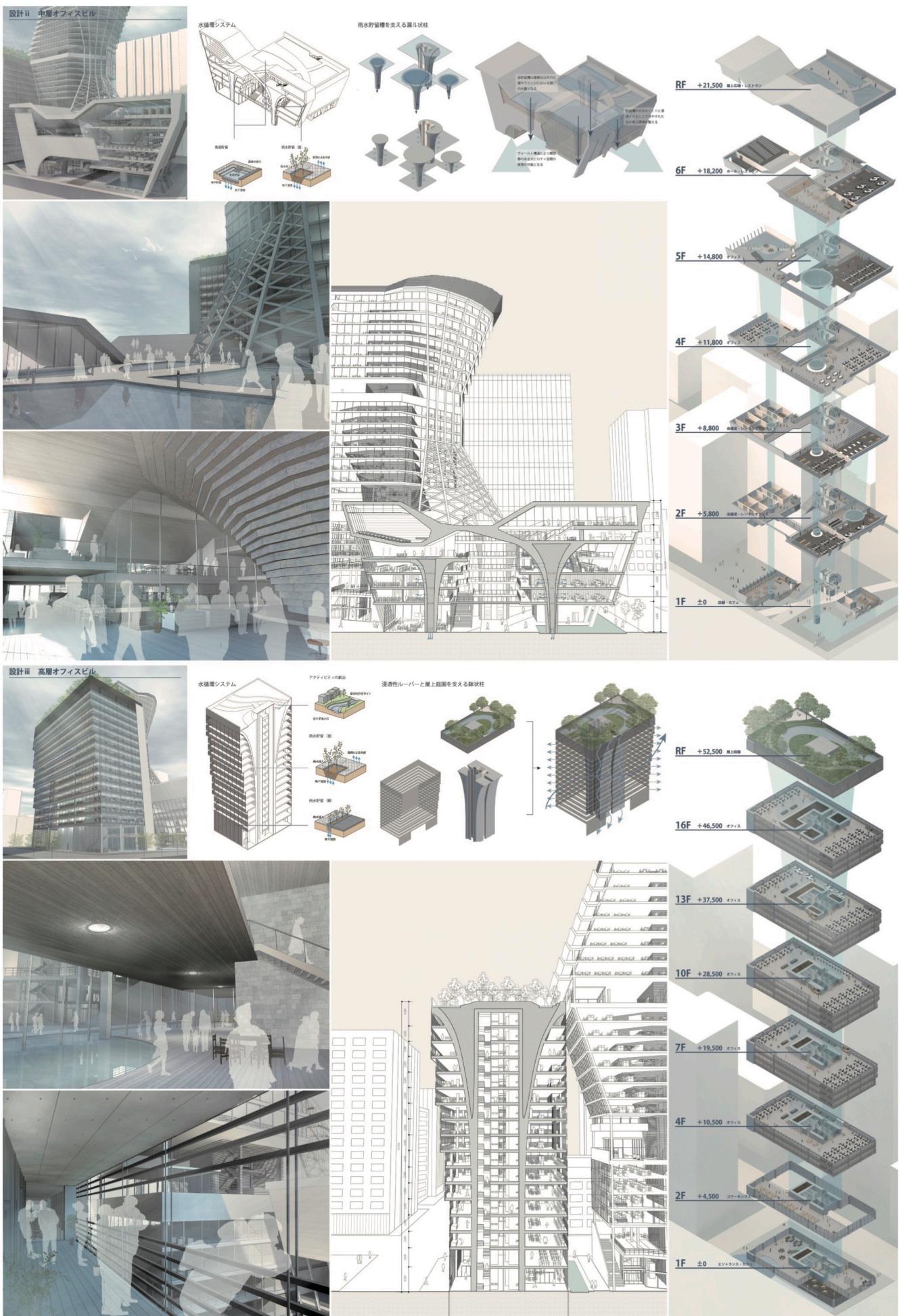
水循環技術を適用した 都市型多層建築の研究及び設計

大西健太（楓橋研究室）



従来のインフラは都市の水を負の要素と捉えコンクリートの塊に閉じ込めており、自然環境に大きなダメージを与えるだけでなく都市における人々のアクティビティや憩いの場としての空間も奪ってしまった。近年着目されているグリーンインフラの考え方を、広場や道路空間だけでなく建築にも応用し、水を蓄え効果的に利用する「スponジ建築」を提案する。都市に求められる吸水性やそれに伴った多様な環境効果等を「スponジ性能」と定義し、これを評価軸として都市の水循環の機能・形態を建築へと適用する。





建築的スケールから構築された次世代環境都市<分散型エコシティ>の設計

安治徹（楳橋研究室）

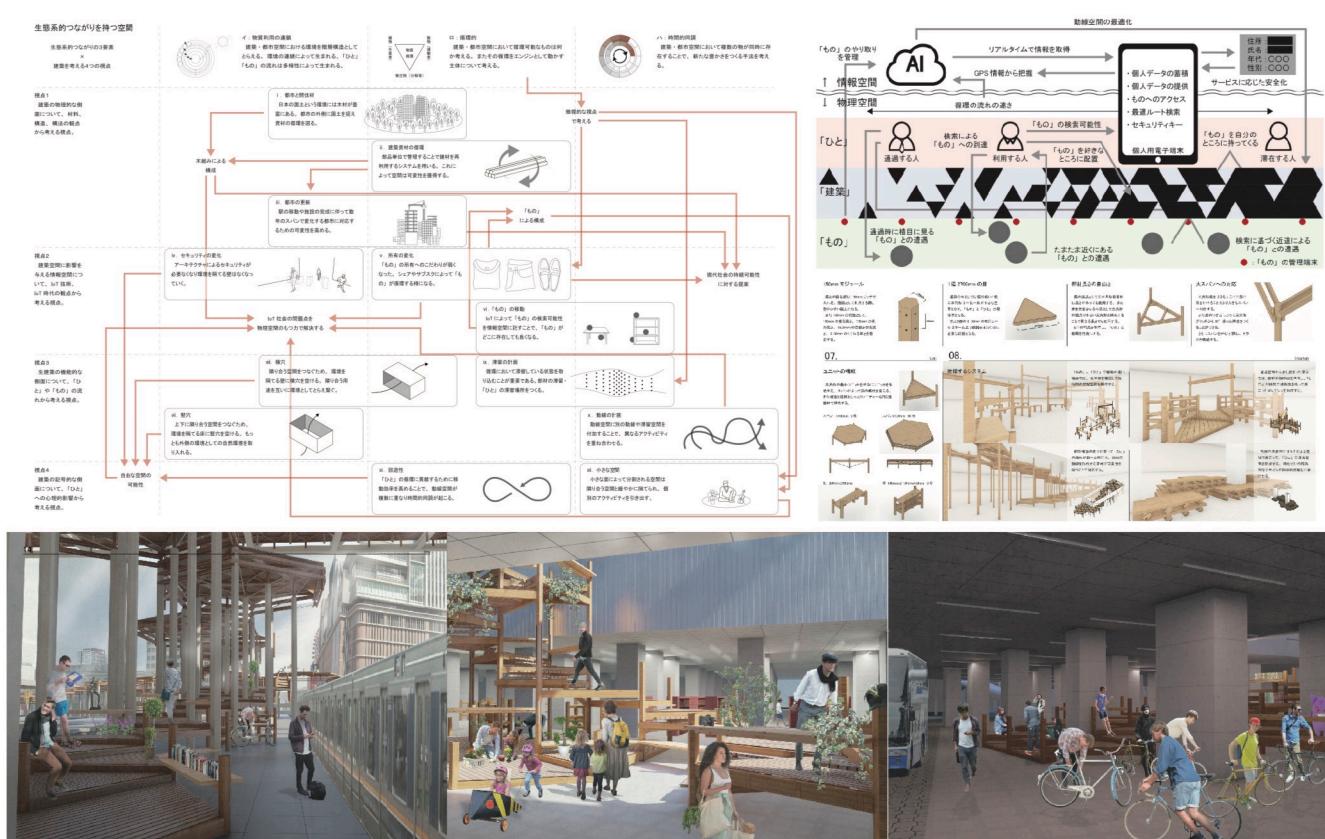
本研究では、建築的なスケールに基づき、歴史的環境都市の分析と現代社会における生活環境の転換に関する考察を行い、今後訪れるであろう地方分散型社会における都市と建築の形成手法について検討を行なった。得られた知見をもとに、これから環境都市モデルに通底する一般解の構築を試みた上で、歩行者空間を主軸に水や緑のネットワークによる循環システムを構築し環境計画やコミュニティ形成へ考慮しつつ、地方分散社会における都市と建築の近未来像を示した。



IoT時代における生態系的つながりを持つ建築・都市空間の研究及び設計提案

長田遼哉（光嶋研究室）

本研究では、近未来における IoT 技術の導入・普及を前提とし、これからの建築・都市空間の在り方について、生態系的つながりという視点を用いて検証し計画を行うことで、現状の建築・都市空間の在り方を批判的に更新することを目的とする。情報化社会における物理空間と情報空間の分離に対して、生態系を参考とした「ひと」と「もの」と「建築」の循環システムを提案することで、多孔化したコミュニケーションを担保する場としての物理空間を取り戻す手法を検証し、JR 大阪駅をケーススタディの敷地として空間化する。





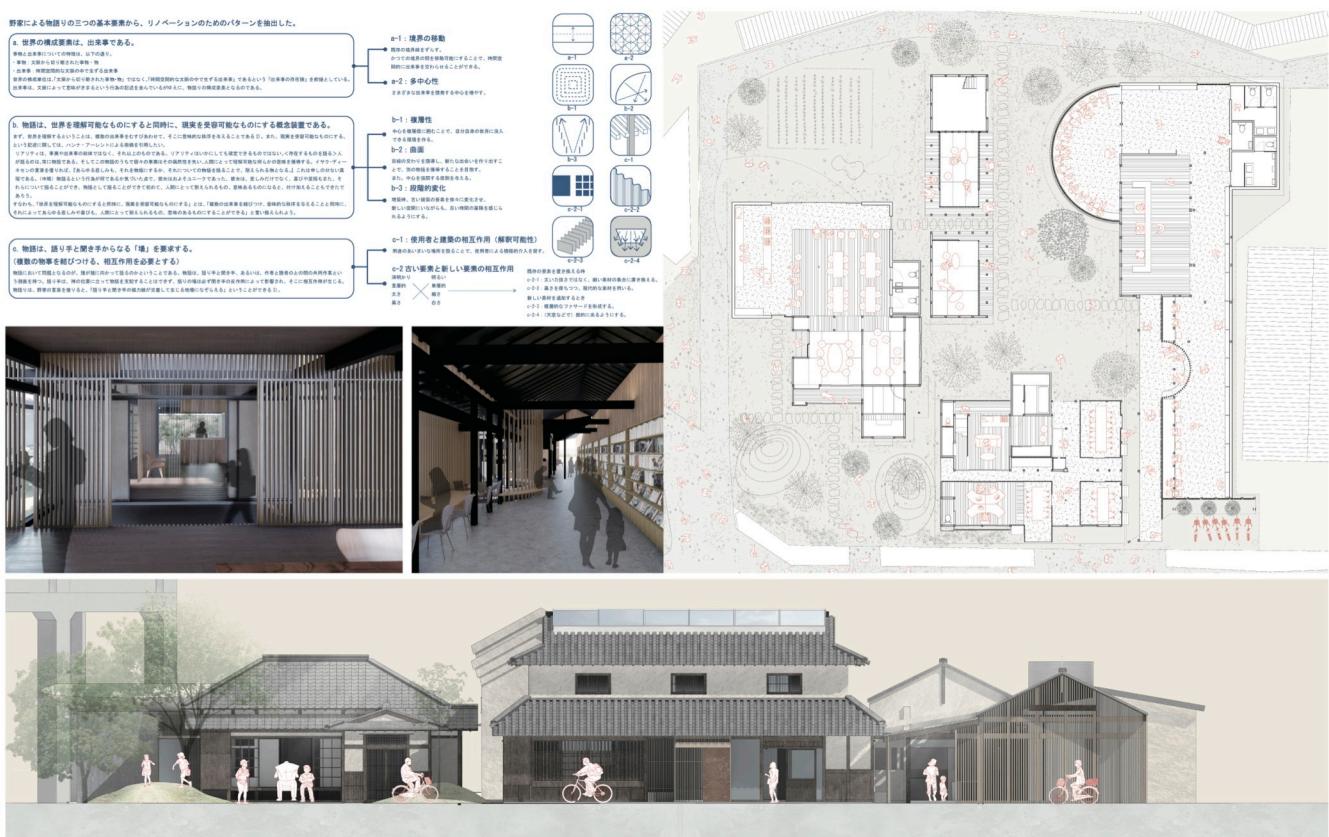
都心における植栽術を適用した空中緑化空間の研究および設計 小野原祐人（楳橋研究室）

本研究では、配植と景観に関する植栽術という視点から植物と共に存する建築の事例分析を行い、都市とみどりの新しい関係性を見出し、都市建築どうしの緑化に着目して空中緑化植栽計画を提案している。回遊式庭園に見られるようなみどりのシークエンスを引き伸ばして展開し、それらをビルの中間層にみどりのヴォイド（Green Trajectory）として挿入することで、多様なアクティビティと景観を生み出す新たな都市緑化を実現する。



古民家リノベーションにおける物語り論の応用手法の研究及び設計提案 ～「生きづらさ」を抱える子どもと高齢者との交流空間の設計を通じて～ 篠山航大（光嶋研究室）

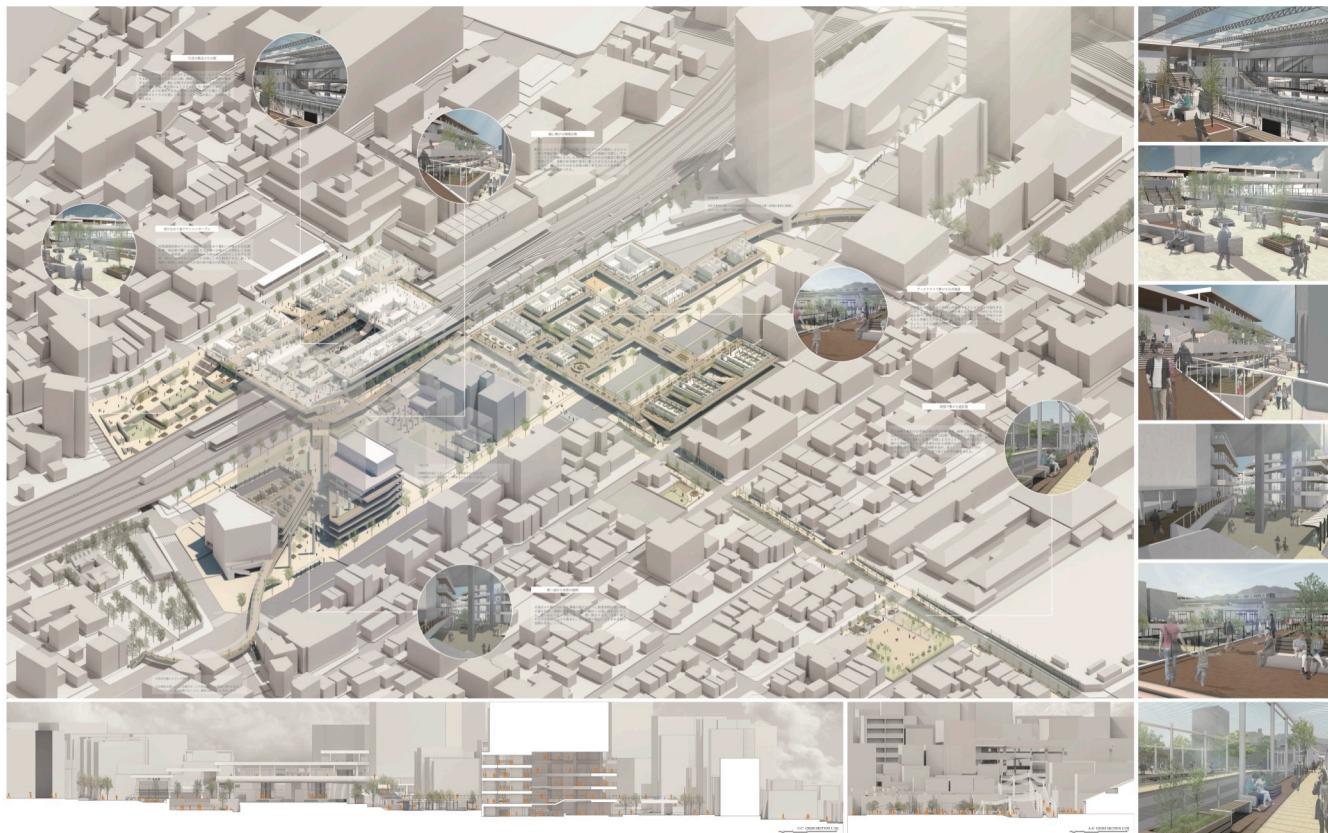
日本は現在人口減少時代に突入している。建築業界においても、ストックをいかに活用するのかが大きな課題である。一方で、特に郊外においては、現在も残る古い住宅は、次々に姿を消している。本研究では、縮小時代の要請に応えつつ、地域の記憶を宿す古い家を再活用する方法として、物語り論を援用した設計論を提示する。



「駅まち空間」における「余白」空間の研究及び設計 - 神戸市住吉地区への提案を通じて -

福原草雅（楳橋研究室）

日本の都市鉄道は郊外の住宅開発に伴い新規路線開発・駅建設が行われてきたが、これからは駅を拠点としたまちづくりが求められている。本研究では、駅・駅前空間・周辺地区を「駅まち空間」として一体的な空間と捉え、神戸市の東の拠点駅である住吉駅を計画敷地として、「余白」空間を用いた「場」を設計し、それらが相互作用してまちの中に賑わいの空間を生み出し、まち全体が活性化された「駅まち空間」をこれからの駅及び周辺地区のあり方として提案する。



公共図書館における多機能施設との関連性に関する研究および設計

前田稜太（楳橋研究室）

本研究は公共図書館とそこに複合されている施設の間の空間の接続方法に着目して分類を行った。神戸市立中央図書館を対象にして5つの複合機能を設定し、それらを細かいエリアに分割することで生まれる境界に対して接続方法を適用することで設計提案を行った。

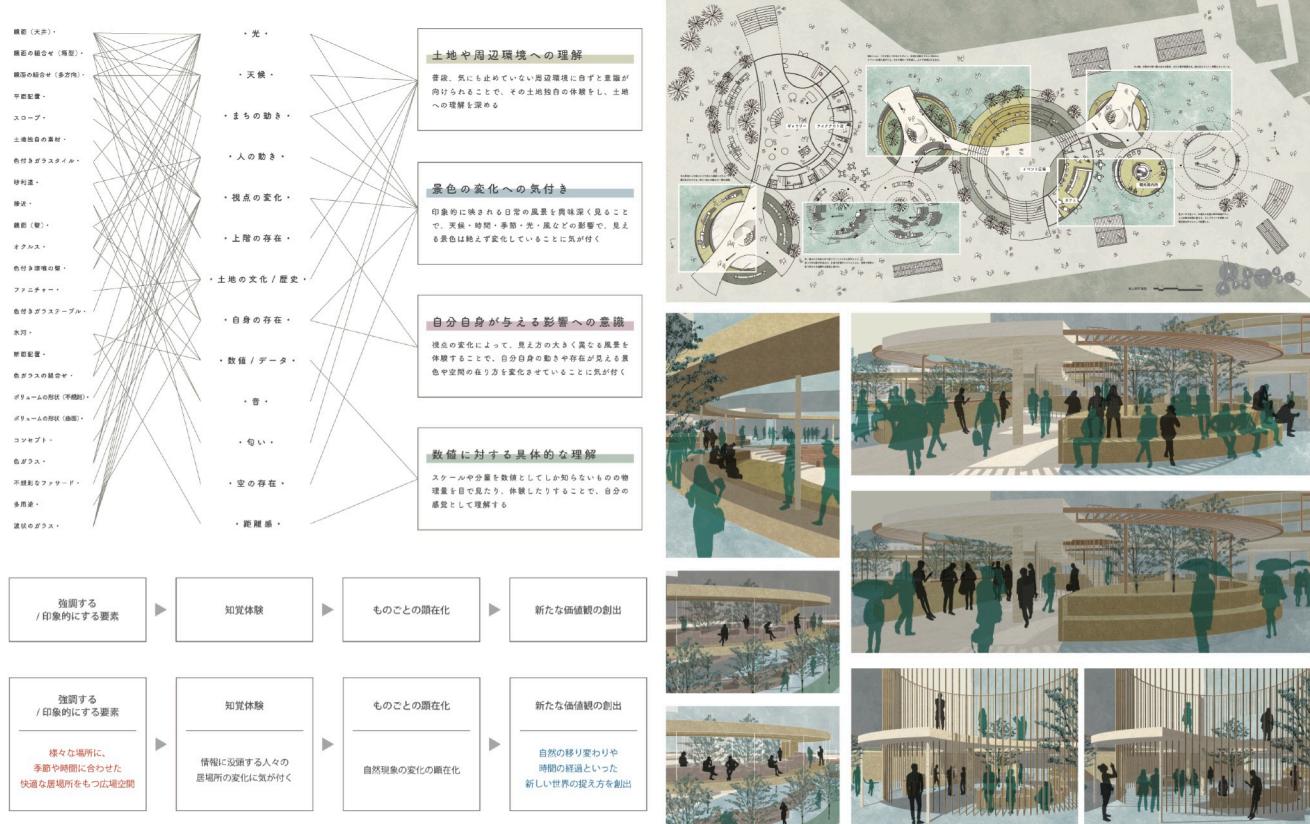




情報化社会における広場空間の形成手法に関する研究および設計

八木和（規橋研究室）

情報端末の普及によって増加した情報に没頭するという活動に着目し、情報化社会における広場空間の設計提案を行った。意識されていないものを顕在化させるという手法をとるアーティスト建築家のオラファー・エリソンの作品分析から、広場空間の在り方を定義し、情報に没頭する人々の居場所の変化で自然現象の変化を顕在化させる広場空間を創出することで、人々に自然の移り変わりや時間の経過という気付きを与え、新しい時代の広場空間がもつ価値を示す。



神戸南京町の街路空間の研究及び設計提案

吳聞達（光嶋研究室）

南京町は日本の伝統的な中華街で、1970年代と90年代の街が整備されて以来、21世紀の南京町は新しい問題に直面しています。本研究では、中国文化における「食空間」と「食体験」を南京町の街の空間に埋め込み、中国的「食」の多様性を出発点として、南京町の既存の公共空間を改善し、南京町に属する独特的「場所性」を創造します。



■修士設計発表会 / 公聴会の様子

修士設計発表会

[日時] 2022年12月22日(木) 13:20~16:40

[場所] 神戸大学百年記念館 六甲ホール

[担当教員]

主査・副査：楢橋修（准教授）

主 査：光嶋裕介（特命准教授）

副 査：末包伸吾（教授） 中江研（教授） 栗山尚子（准教授）

修士設計公聴会

[日時] 2023年2月13日(月) 9:00~11:45

[場所] 神戸大学工学部 C1-301

